

## 【多元文化論講座・前期】

◆科目名：異文化接触論演習 a

Seminar on Intercultural Relations (a)

◇概要：この授業の目的は、西欧近代の地球的規模での展開の諸相を批判的に検討することに基づいて、他者表象を分析することにある。

The aim of this course is to analyse the representations of others, based on the critical examination of the development of the modern West on a planetary scale

◇担当教員：田所光男

TADOKORO Mitsuo

◇開講時限：前期月曜 1 限

◇教室：(後日公表する時間割表で確認して下さい)

◇目的・ねらい：諸文化の比較研究における基礎的理解力を確保し、修士論文・博士論文を執筆するために応用力を高める。また、この分野で研究を遂行し、成果発表をするための実践力を養成する。今期の授業の中心は、各自の関心に応じて、異世界（異文化・異民族・異人種、等）の表象を批判的に考察することに置かれる。

◇講義内容：

### 1) 論文批評

〈いい論文〉、〈よくない論文〉、とはどういうものかをまず理解する。特に、論文作法における、a. 絶対にやってはいけないこと、b. 最低限やるべきこと、c. こうするとよくなること、などを、実際の例にあたって考察する。ここで取り上げる論文は、皆さんにとっての当面の目標である、国内の雑誌に掲載された大学院生の査読論文である。

### 2) 異世界の表象の考察

①受講者全員に共有して欲しい歴史理解の枠組みを田所が提示する。特に、トマス・クーン『科学革命』のパラダイム論を使いながら、「西欧近代」を相対化していく。

②受講者全員に共有して欲しい表象研究の枠組みを田所が提示する。蝸壺的なディシプリン意識を壊し、領域を越えジャンルを越えて行く研究の興味を伝えたい。間テクスト性、対位的読解、などが重要な論点となる。

③受講者は、各自の選択したテーマで、口頭発表を行う。

◇教科書・参考書等：教科書は使用しない。授業に参加するために必要な文献は、授業の中で指示する。

◇授業期間中の課題：

1) 共通の前提テキストとして予定しているのは、エドワード・サイードの『文化と帝国主義』(大橋洋一訳、みすず書房、1993年)である。本書は、『オリエンタリズム』の続編と呼べる、非常に大部の、内容も充実した著作である。これを読解するには、近現代の歴史を地球的規模で把握しておく必要があり、また、対象となる小説や劇作類についての知識も不可欠であるが、各自読み進めること。

2) 論文批評担当回までに、論文を読み込み、レジュメを作成する。

3) 異世界の表象のテーマで、具体的な発表の準備を行う。

4) 担当しない回では、あらかじめ与えられる基本文献・資料について読み込みを行い、ディスカッションポイントを考える。

◇成績評価の方法:以下の3点から総合的に評価する。1)論文批評(おおよそ30%)。

2)各自の選んだ、異世界の表象テーマで資料を準備し口頭で発表を行う(おおよそ

60%)。3) 授業で行われる発表後の質疑への参加 (おおよそ10%)。二つの口頭発表を行わない場合は「欠席」とする。

◇オフィスアワー：必要に応じていつでも、が原則です。電話・メールなどであらかじめ連絡してください。

◇連絡先：tadokoro@cc.nagoya-u.ac.jp  
内線 5311  
文系総合館 7 階 707 号室